

参考 2

平成23年度に重点的に取り組む課題の概要

課題名	コスト削減をめざした森林整備への取組 ～ <u>コンテナ苗</u> による省力造林に向けて～
取組の内容	<p>本州、九州においては再造林コストの削減を図るため、マルチキャビティコンテナを利用した苗木（コンテナ苗）を活用した植栽が推進されている。</p> <p>北海道においてもコンテナ苗の植栽が造林技術として有効であるかを検証するため、北海道の主要林業樹種であるトドマツ、アカエゾマツ、カラマツ等のコンテナ苗の植栽工期、活着状況、生長等の調査を行う。</p>
実施項目	<ul style="list-style-type: none"> ① 樹種別、植付器具別の植栽 ② 植栽工期調査 ③ 初期生長、活着状況調査 ④ 保育省力化の可能性の検討
実施機関	北海道森林管理局 森林技術センター
協力機関	独立行政法人 森林総合研究所北海道支所

コンテナ苗：マルチキャビティコンテナ（苗木生産用の容器）で生育した苗木。培地付き苗木であることから、植栽の効率を高めることや、良好な初期生長が期待される。

平成23年度に重点的に取り組む課題の概要

課題名	長伐期施業における樹冠長率を指標とした森林管理技術の開発
取組の内容	<p>人工林全体の高齢級化及び森林資源の成熟化が進む中、持続的な森林経営を実現していくため、長伐期施業は有効な施業方法の一つである。</p> <p>長伐期施業を推進するためには、間伐収入を見込んだ効率的な経営を図りつつ、高齢級林分を健全かつ低コストに維持する森林管理技術が求められる。</p> <p>このため、樹冠構造と生長の関係に着目し、樹冠長・樹冠長率を指標として、気象害への耐性を備え、かつ直径成長が持続する林型を維持する森林管理技術を開発する。</p>
実施項目	<ol style="list-style-type: none"> ① 樹冠長・樹冠長率と多面的機能との関係整理 ② スギ・ヒノキ林分（林齢80年生以上）の調査 ③ スギ・ヒノキの年輪解析・樹幹解析 ④ 樹冠構造と生長の関係の分析
実施機関	中部森林管理局 森林技術センター
協力機関	岐阜県立森林文化アカデミー

ちようばつきせぎよう

長伐期施業：通常の主伐林齢（例えばスギの場合40年程度。林齢は樹木の年齢。）

のおおむね2倍に相当する林齢を超える林齢で主伐を行う森林施業。

じゆかん

樹冠：樹木の枝や葉の茂っている部分。

じゆかんちようりつ

樹冠長率：樹高（樹木の根元から先端までの高さ）に占める樹冠の高さ（長さ）

の割合。

平成23年度に重点的に取り組む課題の概要

課題名	かかり木処理器具の改良及び伐採方法の検討
取組の内容	<p>林業の労働死亡災害は、年40件を超える件数で推移している。また、近年は間伐作業が増加し、間伐作業で生じる「かかり木」の処理による死亡災害が全体の約18%を占めている状況である。</p> <p>このような中、間伐を促進するため、かかり木処理器具の軽量化及び携行しやすい改良等並びにかかり木が発生しにくい伐採方法を検討し、間伐作業の安全性の向上を図る。</p>
実施項目	<ul style="list-style-type: none"> ① かかり木処理器具の改良 ② かかり木が発生しにくい伐採方法の検討 ③ 新たなかかり木処理器具の取扱方法マニュアルの作成
実施機関	四国森林管理局 森林技術センター
協力機関	

かかり木：伐採された木が、周囲の木に寄りかかり不安定な状態になっていること。